

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472000120
法人名	医療法人(社団)佐藤病院
事業所名	グループホーム ながしま
所在地 (電話番号)	桑名市長島町福吉268 (電話) 0594-45-1150
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 9 月 5 日(水)

【情報提供票より】 (H19年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	24 人	常勤 20人, 非常勤 4人, 常勤換算 22人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	1,000~2,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 700 円
	夕食	700 円	おやつ 1,500 円
	または1日当たり 1,700円		

(4) 利用者の概要(8 月 20 日現在)

利用者人数	26 名	男性 5 名	女性 21 名
要介護1	3 名	要介護2	10 名
要介護3	6 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 73 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長島中央病院(別添 協力病院委託契約)
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三重県内でも数少ない3ユニットのグループホームで、ユニット「夢」はH12年スタートの実績があり、他の2ユニットはH15年スタートである。個別で運営されているが、しっかりと連携は取れており、どのユニットに入っても安心できる体制で、季節の催物等は一つにまとまって開催している。職員はそれぞれのユニットに固定配属されているが、利用者からは全職員がなじみの職員になるよう配慮されている。医療法人が母体であり病院、介護老人保健施設、高齢者生活支援集合住宅等が併設されており、利用者家族の安心感、信頼感を得ている事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査の改善課題であった「重要事項書」の見直しや「ヒヤリハット」「ホームだより」等については全て改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はじめ職員は調査の意義、目的をよく理解し課題の検討改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年9月から2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、提供しているサービス内容を説明している。出席者からは第三者の目で意見をいただき、サービスの質の向上につなげている。行政からは3ヶ月に1回の開催の意向があるが、地域との交流が目的の会議であり、開催頻度は継続をお願いしたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族訪問時、意見や苦情の吸い上げを行っているし、運営推進会議でも吸い上げの体制は出来ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	運営推進会議の開催や地域のイベントへの積極的な参加で、地域との交流も出来てきているが、建物の立地条件からなんとなく入りにくい雰囲気があるので、事業所側から積極的に地域と交流する機会を増やす努力が望まれる。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を施設長はじめ職員全員で理解し、「家庭的な環境と地域住民との交流の下・・・」と地域を意識した基本方針・理念としている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の中に、自己研磨として「いつも笑顔で、言葉使いはていねいに・・・」とか言葉三訓として「あたたかい言葉・・・」介護三要として「感謝される介護・・・」があり、ミーティングや申し送り時に、常に話合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のイベントには積極的に参加しているし、近くの小学生が来てくれている。また運営推進会議も積極的に開催してきており、地域との交流はできて来ているが、建物が道路から少し奥まったところにあり、入って行っはいけない所のような感じで、ぶらっと立ち寄ってくれる馴染みの人が少ない。	○	建物の立地条件から、なんとなく入りにくい雰囲気(病院を感じさせる)があるので、事業所側から積極的に地域と交流する機会を増やしていかれることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでおり、前向きな取組みを行っている。前回の要改善事項についても全員で話し合って改善している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、提供しているサービス内容を報告し、出席者から第三者の目で見えをいただいている。	○	市役所から2ヶ月に1回を3ヶ月に1回と開催頻度を少なくする要求が来ているが、運営推進会議の目的は「事業所と地域との交流が増すこと」であり、気軽なテーマで開催頻度を増やされる方向で検討されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護職員が直接市役所担当者と連携を取ることは少ないが、施設長や生活相談指導員は市役所訪問頻度も多く、情報交換・連携は強い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の家族のほしい情報が何かも把握しており、家族の訪問時や定期健診結果を含めて定期的に、また随時情報を入れている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情の対応窓口の設置や第三者への相談体制もできているし、運営推進会議でも意見の吸い上げを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動による利用者への影響を良く理解しており、各ユニットの職員を固定化しているし、3ユニット合同のレク等催物を多くすることにより、利用者が他のユニットの職員を覚えるようにもしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修は多く、出来るだけ多くの職員に参加の機会を設けているし、研修受講後は報告を行い他の職員と共有している。	○	個々の職員には役職や経験に応じた勉強の機会を計画的に設け、硬い表現ではあるが「個人別育成計画」を作成されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県下グループホーム連絡協議会主催の研修会や会合等を通じ意見交換や情報交換をしている。	○	事業所の質の確保には地域他事業者との情報交換等交流が不可欠であり、形式的な表面上の交流でなく、事業者同士が協働してサービスの質向上につながるような関係づくりをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談指導員の説明だけでなく、本人や家族に施設を見学してもらって納得してもらってからのサービス利用になる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は人生の先輩である」という考えが理念の一つにあり、職員は普段からものを大切にすることや節約すること、「もったいない」という考え方を教えてもらったり、支えあったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの雑談や見守りの中で、希望や意向の把握をするように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の意見だけでなく、本人や家族との日常の関わり合いの中で吸い上げた意見を反映させ、計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、家族に説明し、意見を取り入れ、了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヶ月毎であるが、状況変化時にはその都度支援内容を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の人的・物的な多機能性を活かし、通院送迎や買物支援等、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望のかかりつけ医となっているが、内科医については全員が系列の病院の医師であり、毎週往診に来てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所系列の病院と連携を密にとっており、終末期は病院という考えで本人や家族と話し合い支援している。	○	将来の終末ケアへの取り組みについても検討する時期に来ていると感じられる。本人や家族、かかりつけ医等とどのような時期にどんな話し合いをするか全員で方針を共有することについて、検討をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮し、さりげない言葉かけがなされていたし、排泄には特に気配りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本スケジュールはあるが本人の自由なペースを尊重し無理せず、その日の利用者の体調に合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一括して併設の老健で調理し、各ユニットでは個々の利用者に合わせて調理を行っている。利用者は食事の準備や後片付けを手伝っており、食事時間は職員全員が利用者と同じものを一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴は可能であり、利用者の希望に合わせて概ね昼からの時間帯になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る人には部屋の掃除、洗濯物たたみや食器洗い、中庭の園芸等、趣味を活かした楽しみ、気晴らし支援を行っている。中には自分で洗濯する利用者もおられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に天気のよい日は近くの公園へ散歩に出掛けたり、買物に出掛けている。	○	利用者も屋内に閉じこもった状態が続くとストレスがたまりやすく、一人ひとりの行ってみたい場所の把握を含め、日常生活の中で戸外に出る機会づくりをお願いしたい。更に地域の催しへの参加、見学など、地域とのふれあいのある支援もお願いしたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊のひどい方がおられ、転倒も危惧されるので、その方のおられるユニットの出入りの鍵が安全のために掛けられている。	○	鍵を掛けられ外に出られない状態で暮らすことの利用者に及ぼす影響を再考慮され、「安全面上しょうがない」ではなく、少しでも鍵を掛けない時間を多くされるよう検討をお願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練や消火訓練を定期的実施している。	○	非常時の職員だけでできる避難、誘導の限界を踏まえて、地域の方々にも協力していただける関係づくり、体制づくりをお願いしたい。また非常時に即対応できるのは職員だけであり、昼だけでなく夜の避難訓練も検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設老健の管理栄養士を交えた給食委員会もあり、バランスのとれた食事を提供している。食事摂取量・水分摂取量も職員が把握し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの1つには3つのユニット全員が集まれる広さの居間兼食堂があり、季節ごとの催物が行われる場所になっている。他の2つのユニットは生活感、季節感あふれる手作りの飾りが壁に掛けられ居心地良さを感じる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの日用品や家具を持ち込んでおられる居室もあり、本人好みの環境が作られている。押入れの中に引き出しをつけられた部屋もあり、全般的にさっぱり感の部屋が多い。		